

張ニ基キ之ヲ自己ノ所有ト看做シ公法人タル資格ヲ以テ出訴スヘキハ當然ナリ
(不詳)立木共有權確認請求

一一七 村長カ村ノ爲メニ繰替ヲ爲シタル金圓ハ村會ノ議決ヲ竣ツニ非サレハ村
債ト爲スヲ得サルモ有給村長ノ月給及旅費ノ如キハ當然村ノ負擔ニ屬スヘキモ
ノトス^{三十一年十二月一日}繰替金請求

七 議員選舉ニ關スル法令

一一八 明治二十二年法律三號衆議院議員選舉法三八條二項及五一條六號ハ選舉
人ニ適用スヘキモノニシテ投票所ノ管理者ニ適用スヘキモノニ非ス<sup>廿三年五月三
四月十日</sup>不當決定取消

一一九 投票所ノ管理者カ明治廿三年勅令三號衆議院議員選舉法施行規則十九條
及二一條ノ規定ニ記載ナキ手數ヲ爲シタルモ法律上投票ヲ無効トナスヘキ制裁
ナキモノトス同上

一二〇 投票紙ニ記名ノ文字ハ草行零字及誤脫等アルモ締視スレハ其誰タルヤヲ
知り得ヘキ文體ヲ備ヘタルモノナル上ハ以テ衆議院議員選舉法五一條第五但書
ノ法意ヲ備フルニ足ル^{廿三年四月五〇號}不當決定取消

一一一 選舉法中被選人名簿ヲ調製スヘシトノ明文ナシ同上

一二二 無資格者ハ確定選舉人名簿ニ登載セラレタル爲メ選舉資格ヲ取得スルモ
ノニアラス^{廿三年五月廿四日}無効當選取消

一二三 選舉人ノ無資格ナル事實ハ當撰訴訟ノ理由トナスヲ得ヘシ同上

一二四 衆議院議員撰舉法七八條ノ規定ニ於ケル當選無効ノ出訴期限モ亦同法八
八條ニ依リ普通民事ノ規定ニ從ヒ里程延長ノ爲メ相當ノ猶豫ヲ附與シテ起算ス
ヘキモノトス^{廿五年七月九日}當選無効

一二五 當撰訴訟ハ其理由ニ制限ナキヲ以テ假令投票ノ有効無効ヲ理由トスルモ
是ヲ以テ當選訴訟規定以外ノモノト爲スコトヲ得ス^{廿五年五月三號}當選無効

一二六 事ニ害ナキ限リハ衆議院議員選舉法三四條ニ規定セル投票時間ヲ其時間
以前ニ閉鎖スルモ不法ノ處爲ト云フヲ得ス^{廿六年一月十三日}當選取消

一二七 衆議院議員選舉法中選舉人名簿確定シタル以上ハ之ニ記載セラレタル者
ハ爾后如何ナル場合ニ遭遇スルモ其資格ヲ喪失スルコトナシトノ規定ナキヲ以
テ財産減少ノ如キ資格ノ異動又ハ誤載アルトキハ其選舉投票ヲ有効ナリト云フ

ヘカラス^{廿五年十月四日}一號當選

一二八 衆議院議員選舉法施行規則三條ハ同選舉法六條ノミニ於ケル直接國稅云々仍引續納ムル者トノ意義ヲ解釋シタルモノニテ單ニ納稅ノ意義ヲ示シタルニ止マラス必ス十五圓以上ノ稅ヲ納ムヘキ土地ヲ仍ホ選舉ノ際迄間斷ナク所有セサルヘカラストノ意義ヲ包含シアルコト行文上自ラ明カナルモノトス同上

一二九 衆議院議員選舉法ノ選舉委員ナル者ノ職務如何ハ同法四七條五七條ニ記載アルモ同條項ニ於テハ他ニ所作上ノ觀ルヘキモノアルニアラサレハ其職務ハ選舉會場ノ閉會ニ伴ハレ自然消滅スヘキ筋合ナリ左レハ同法五二條后段ノ法文ハ委員其者ニ應用スヘカラストシテ一般ノ投票有權者ヲ指シタルモノト解釋セサルヘカラスト同六年五月十七日當選無効

一三〇 所得稅ニ繼クニ地租ヲ以テスルモ仍ホ其地租ヲ選舉人名簿調製期日前即チ四月一日前滿一年以上納ムル者ニ非レハ選舉法八條ノ被選人タル資格ナキモノトス同七年一月三十八號 不法決定

一三一 衆議院議員選舉法七八條ハ選舉法全体ノ手續ニ瑕疵アル如キ場合ノミニ限ラス各個投票ノ効力有無カ選舉全体ノ効力ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ於テハ其各個投票ノ効力有無ニ論及シ得ヘキ法意ナリ同九年二月廿四日號當選取消

一三二 選舉人名簿ニ關スル選舉長ノ決定アリト雖モ其名簿記載ノ根元ニ於テ錯誤無効等ノ事實アルニ於テハ裁判上該決定ニ反シテ選舉人ノ資格ノ有無ヲ確定スルヲ得ヘシ同上

一三三 衆議院議員選舉法三七條乃至三九條ノ規定ニ違背シタル投票ハ當然無効ナリ同上

一三四 衆議院議員選舉法施行規則三條一項ノ規定ハ選舉人名簿調製期日ヨリ起算シテ其前滿一年以上地租ノ上納ヲ爲スヲ要スル意義ニアラスシテ其名簿調製ノ期日ヨリ以前滿一年以上ノ地租ヲ負擔シ之カ完納ヲ要スルノ旨趣ナリトス同上

一三五 府縣會議員不當選舉取消請求ノ訴ニ付控訴院ノ與ヘタル判決ニ對シテ上訴ヲ許サス同七年十月十二號不當當選取消

一三六 府縣會議員選舉規則五六條但書ニ掲クル終審ノ文字ハ覆審ノ意義ニ非スシテ最終審級ノ意義ナリ同上

一三七 罰則違犯ト刑法犯トハ數罪俱發例ヲ適用スヘカラサルモノニ非ス即チ法律規則ニ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セストノ明文ナキ以上ハ刑法ノ總則ヲ適用シ

欺罪俱發ヲ以テ論スルモ不當ニ非ス同廿四年二月廿四日衆議院議員選舉法違反

一三八 選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ人名簿ニ記載セラレ而シテ投票ヲ爲シタル者ハ刑法二百三十三條ノ投票偽造罪ニ問フヘキモノニ非スシテ衆議院議員選舉法八十九條ヲ以テ處斷スヘキモノトス全上

一三九 他人ニ府縣會議員ノ投票ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ他人ニ金錢物品ヲ授與シタル罪アリト判定セシムルニハ其得セシメントシタル人ノ資格ハ果シテ府縣會議員トナルノ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤ此事實理由ハ必ス明示セサルヘカラス何トナレハ假令他人ニ投票ヲ得セシメントノ目的ヲ以テ選舉權ヲ有スル人ニ金錢物品ヲ授與シタルニモセヨ其主タル府縣會議員トナルヘキ人ニシテ其資格ヲ有セサルニ於テハ到底其目的ヲ成就スルコト能ハサルニ付被選舉權ノ有無ハ犯罪組成上必要ノ事實理由ナレハナリ同廿四年二月廿一日選舉規則違反

四〇 衆議院議員選舉法百一條ニ前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ストアルハ附加刑ヲ定メタル者トス故ニ同法九十一條二項刑法二百三十四條ニ該當スル所爲ハ其刑期範圍内ニ於テ處分シ仍選舉法百一條ニ依リ三年以上七年以下選舉權ヲ停止セサルヘカ

ラス然ルニ之ヲ停止セサリシハ失當ナリ同廿七年八月六日衆議院議員選舉法違反

一四一 罰金ノミヲ科スヘキ法則ヲ適用シナカラ体刑ヲ科シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ同廿九年四月十四日府縣會議員選舉規則違反(府縣會議員選舉規則六〇條一項刑法二三四條)

一四二 町村制ノ規定ニ基キ組織シタル組合會議員ノ選舉ハ公ノ選舉ナリ從テ其投票ヲ偽造シタル所爲ハ公選投票偽造罪ヲ構成ス同三十年十月十八日公選投票偽造

一四三 公選投票詐欺報告罪ハ調書ヲ作成シ投票ノ結果ヲ報告スル身分ヲ有スル者ニ非サレハ實行正犯者ニ非ス而シテ其身分ヲ有セサル者ト雖モ教唆又ハ幫助ノ所爲アル時ハ教唆者又ハ從犯者トシテ其犯罪ヲ構成ス同三十年八月廿二日公選投票詐欺報告

一四四 衆議院議員選舉法罰則第二條ニ所謂選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者トス其妨害ノ爲メ全然選舉ヲ施行スルコト能ハサリシ場合並ニ選舉權ヲ施行スルモ其施行ヲ妨害セシ場合ヲ包含ス同廿一年六月九日衆議院議員選舉法罰則違反

一四五 衆議院議員選舉法罰則補則ハ選舉人ノ自由任意ノ選舉權ノ施行ヲ妨害スル者ヲ罰スルノ趣旨ニシテ其投票セントスル者ノ被選舉權ヲ有スルト否トハ問

フ處ニ非ス全上

八 議會並議員保護法

- 一四六 議會保護律ニ基キ村會ノ爲メニ告訴スル場合ニハ議長ヨリ爲スヘク村長ヨリ爲スヘキモノニ非ス同廿七年十二月六日 議員保護律違犯
- 一四七 村會議場ニ他人ノ居ラサルモ議員ヲ侮辱セハ公然ノ侮辱罪ヲ構成ス廿八年二月廿六日 議員保護律違犯
- 一四八 議員ノ公務上ノ言論行使ニ付公然誹毀シタル時ハ其議席ニ在ルト控席ニ在ルトヲ問ハス總テ明治二十二年法律二十八號二條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス同三十年三月二日 誹毀
- 一四九 町村長ハ町村制三十九條ニ依リ當然町村會ノ議長ト爲ルコトヲ得ヘシ是故ニ町村會ヲ開クノ必要アル場合ニ當リ議長ノ名義ヲ用ヒス町村長ノ名義ヲ以テ議員ヲ召集スルモ權限外ノ處置ト爲ヌヲ得ス從テ其召集ニ應シタル議員ハ不適法ノ議員ニ非ス同上

九 國稅滯納處分法

- 一五 國稅滯納處分法五十一條ノ制裁ハ財産ノ差押ヲ免脫セントスルノ意思ニ出

テタル行爲ハ即チ滯納處分ニ對スルノ行爲ニシテ法文ニ滯納處分ニ對シ云々トアルハ其處分開始ノ前後ヲ問フヘキモノニ非ス同廿八年三月五日 國稅滯納處分違犯

一〇 間接國稅犯則者處分法

- 一五一 收稅屬臨檢ノ際犯則者ヲ發見シタル場合ニアリテハ間接國稅犯則者處分法六條ノ法則ニ基キ犯則者及證人ヲ訊問スルヲ得而シテ同法ハ其訊問方法ニ制限ヲ設クルコトナシ同廿九年六月廿五日 酒造稅則違犯

一一 狩獵法

- 一五二 狩獵トハ銃及網等ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ云フ同三十年九月十九日 狩獵法違犯
- 一五三 狩獵禁制ノ場所ニ於テ狩獵ヲ爲シタル時ハ狩獵ニ用ヒタル銃及網等ハ罪體ニシテ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ非ス同上

一二 鑛業條例

- 一五四 日本抗法ハ只タ借區ノ年限ヲ十五年ト定メタル迄ナレハ人民相互ノ間ニ取結ヒタル契約カ此範圍ヲ脱シタリトテ違法ノ契約ト云フヘカラス同廿三年四月一

七月 炭坑引揚

一五五 日本坑法三章一款五項ニハ別ニ制限的ノ文字ヲケレハ獨リ坑區其物ニ付利害ノ關係ヲ有スルモノノミニ適用スヘキ注意ナリト解釋スルヲ得ス三十五年九月七日 借區名而換

一五六 借區名面換請求ノ如キ訴訟ニシテ其目的タルヤ一方カ一方ノ得タル借區權ノ不正ノ方法ニ出テタルヲ理由トシ其名義ノ變換ヲ求ムルニ在ルトキハ日本坑法前記款項ニ因リ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス同上

一五七 日本坑法十七款ハ鑛業ヲ爲サント欲スル者カ之ヲ企圖スル場合即チ試掘開坑等ヲ出願シテ其許可ヲ得タル時ニ其坑區内ニ舍屋鐵道等既設シアルニ於テハ度ヲ計リ之ヲ避クヘシトノ事ニテ其權利ノ取得以後新タニ設置セラレタル舍屋鐵道迄之ヲ包含シタル規定ニ非ス廿六年一月三十三號 損害要償

一五八 借區以後ニ於テ或ル事情ニ依リ既ニ設置セラレタル鐵道等之レアル以上ハ其危害ヲ避クスシテ探掘等ノ進行ヲ爲スヘカラサルハ條理上當然ナレトモ其之ヲ避クサルヲ得サルニ至ラシメタル事カ後ニ手ヲ下シタル一方ノ者ノ所爲ニ原因シ果シテ損害アルトキハ其者ニ於テ之カ補償ノ責任ヲ辭スルヲ得サルモ亦

當然ノ筋合ナラトス同上

一五九 鑛業人ハ鑛業條例九章附則ノ例外則ヲ除クノ外ハ鑛業人ノ權利ノ成立カ日本坑法ノ時代若クハ其以前ニ在ルト雖モ該條例實施以後ハ之ヲ遵奉セサルヘカラス隨テ該條例制限ノ爲メニ事實損害ヲ負フトモ是レ法律ノ結果ヨリ生スルモノナレハ他人ニ對シ之カ求償權ナシ廿七年三月四日 損害要償

一六〇 鑛業條例二五條但書ノ場合ニ該當スル適否ヲ判別スルハ鑛山監督署長ノ權内ニ存シ司法裁判權ニ屬セス同上

一六一 鑛業借區權ハ坑區内ニ在ル鑛物ヲ探掘シ得ルニ過キサレハ其土地ノ所有權ヲ害セサル限度ニ於テノミ之ヲ行使スルヲ得ヘク借區許可ノ前後ヲ以テ處有者ト權利ヲ抗爭スルヲ得ス同上

一六二 土地收用法二三條ノ其土地ニ對シ特別ニ關係ヲ有スルモノトハ其土地ノ地上ニ關係ヲ有スルモノノ謂ニシテ地下ニ在ル鑛物探掘者ノ如キハ之ニ包含セス同上

一六三 土地收用法ニ依レル起業者ニ於テ坑區ニ係ル土地ヲ收用若クハ使用スルカタメ生スル損害アリトスルモ鑛業者ニ對シ補償ノ責任ヲ生セサルモノトス同

上

一六四 日本坑法五章二四款ニ於テ借區入ハ年限中其坑業ヲ他人ニ讓渡スルトキ豫メ双方ヨリ願出テ許可ヲ乞ハシムルハ隨意ニ讓渡スルヲ禁スルノ注意ナリ
廿七年十一月五日 同 賣買契約廢罷

一六五 許可ヲ得シテ爲シタル借區權讓渡ノ契約ハ法律上豫約ト看做シ所有權移轉ノ効ナキモノトス同上

一六六 鑛泉採酌權ハ物權ナリ廿七年四月六日號鑛泉採酌妨害排除

一六七 石油等ノ試堀ヲ爲サントスル者ハ鑛業條例八條ノ規定ニ依リ鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘキモノナレトモ其賣買ニ付テハ別段ノ規定ナキヲ以テ同條ニ於テハ之ヲ認許セサルモノト解釋スルヲ相當トス
廿八年十一月九日號 件名不詳

一六八 鑛業條例三四條ハ特許證付與ニ關シ詐偽又ハ錯誤アリタルトキ適用スヘキモノニシテ正當ニ付與セラレタル特許證名前換テ請求スル如キ私權利ノ爭ニ適用スヘキモノニアラス
廿八年二月廿六日號 鑛山特許證名換取消

一六九 鑛山採堀權ニ對スル強制執行ハ民訴六二五條ノ規定ニ準據スヘキモノナレハ特ニ公示ノ手續ヲ爲サ、ルモ第三者ニ對シ有効ナリ同上

一七〇 鑛物ノ試堀又ハ採堀出願中ニ在テ將來之ニ由リ得ヘキ權利ヲ賣買スルハ各人ノ自由ニシテ管轄行政廳カ他日買得者ニ對シ特許證ノ名前書替テ許スト否トハ別問題ニ屬シ當事者間ニ於ケル賣買ヲ無効ト爲スヘキ理由ナシ
廿九年四月十四日 契約履行

一七一 特許ヲ得タル鑛物採堀權ハ單ニ其鑛物ヲ採堀シ得ルニ止リ未タ採堀セサル鑛物其物ノ上ニ權利ヲ有スルモノニアラス故ニ不動産上ノ物權ニアラス隨テ之ニ關スル訴訟カ被告人ノ普通裁判籍ナル地ノ裁判所ニ於テ管轄スヘキモノトス
廿九年十二月十九日號 辨濟提供特許證管換等

一七二 鑛區採堀權ヲ金圓貸借ノ抵當ト爲シ債務者不履行ノトキハ直ニ該採堀權ヲ引渡スヘシトノ特約ヲ付シアル場合ト雖モ其抵當物ノ處分ハ明治六年三〇六號布告ニ準據スヘキモノニシテ特約ニ依リ直ニ抵當鑛區ノ引渡ヲ得ントノ要求ハ不當ナリ
三十年四月三十日號 鑛區採堀權讓渡手續履行

一七三 鑛山採堀權ノ書入登錄出願ハ假差押ノ前ニ左ルモ登錄ニシテ其後ナルトキハ書入債權者ハ假差押債權者ニ對シテ優先權ヲキモノトス
卅一年十一月十一日 不當配當金取戻

一三 米穀取引所法

一七四 營業場以外ニ於テ數次ニ爲シカル空米賣買ノ犯罪ニシテ意思ノ繼續シタル連續犯ハ之ヲ一罪トシテ處罰スヘキモノナルニ各罪トシテ併科シタルハ擬律錯誤ナリ同廿六年九月廿一日米商條例違犯

一七五 自己有所ノ家屋ヲ不正ノ取引即チ空米賣買ヲ爲ス店舗ニ供シタリトテ空米賣買ノ犯罪アルノ外別ニ家屋給與ノ罪ヲ組成スヘキモノニ非ス然ルニ家屋給與ノ所爲ヲ刑法百九條ニ照シ從犯ト爲シ處斷スヘキモノトシ犯則ノ所爲ヲ罰スルノ外別ニ罰金ヲ言渡シ一個ノ被告人ニシテ正犯從犯ヲ兼タル者ト斷定シ二個ノ罰金ヲ併科シタルハ擬律錯誤ナリ同廿六年一月廿八日米商會所條例

一七六 仲買人ト雖モ取引所外ニ於テ賣買取引ヲ爲シタル時ハ當然取引所法二十五條ノ違犯者トシテ制裁ヲ科セラルヘキモノトス同三十年五月廿一日取引所法違犯
一七七 取引所法ニ依リ處斷スヘキ犯罪ニシテ二人共犯ニ係ル時ハ刑法總則ニ從フヘキモノナレハ同法五條二項ヲ適用スヘキモノトス全上

一七八 取引所外ニ於テ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ依リ賣買ヲ爲シタル以上ハ賣主買主ノ外取引所ニ代ルヘキ中間者ナキモ之ヲ以テ取引所ノ取引ト同一ノ方

法ニ非スト云フヲ得ス同廿五年五月廿九日取引所法違犯

一四 通貨及證券模造取締法

一七九 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及スコトヲ得ス故ニ玩弄紙幣ハ明治廿八年法律廿八號通貨及證券模造取締法ニ依リテ禁制セラレタル物件ナレハ同法頒布以前ノ所爲ニ對シ禁制品トシテ沒收シタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アリ同廿八年一月四年十一日原告

一八〇 玩弄紙幣ハ明治二十八年法律二十八號ニ係リ禁制物トナリタルモノ故刑法四十三條一號ニ依リ沒收スヘク二號ニ依ルヘキモノニ非ス同廿九年四月三十日詐欺取財

一八一 兌換銀券類似ノ印刷物ヲ沒收スルニ當リ既ニ廢止セラレタル警察令ヲ援用シ明治廿八年法律廿八號ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ同廿九年五月五日詐欺取財

一五 富籤處分法

一八二 富籤購買ノ所爲再犯ニ係ル時ハ明治十五年二十五號布告二條ニ定メタル二十日以上四月以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ノ二倍ノ範圍内ニ於テ

處分スヘキモノトス同廿六年一月三十八號富籤購買

一八三 又同布告二條ニ二倍トアルヲ前キニ被告ニ科シタル刑期金額ノ二倍ニ處スヘキモノト解釋スルハ誤解ナリ同上

一八四 凡一國ノ臣民ニシテ其國民タルノ分限ヲ有スルモノハ管ニ其本國ニ居住スル年月日ニ止マテス假令外國へ居住シ若クハ滯在中ト雖モ其本國ノ法律ニ服從スヘキ義務アルヲハ言テ俟タス故ニ明治十五年布告廿五號二條ヲ適用スヘキ者トス廿七年一月三十一日富籤購買

一六 移民保護法

一八五 移民保護法違反事件ニ付移民株式會社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事實ヲ明示セザル判決ハ理由不備ノ不法アリ廿四年四月九日移民保護法違反 參照本法ノ罰金ハ商會社ニ在テハ其各條ニ掲グル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

一八六 移民保護法二十四條ノ代理人ニハ官許ヲ得サル代理人ヲ包含セス同上

一八七 移民保護法五條ニ所謂渡航ノ周旋トハ渡航ノ爲メ助力ヲ與フルノ意義ト廿八年八月八日移民保護法違反

一七 酒精營業稅法

一八八 酒精營業稅法細則ハ正當ニ免許ヲ得營業スヘキ者ニ定メタルモノニシテ其無免許ニテ營業ヲ爲シタルモノノ如キハ該細則ニ依ルヘキモノニ非ス故ニ無免許ニテ營業ヲ爲シタルニ於テハ總石高三倍ノ罰金ヲ科スヘキハ酒精營業稅法十條ノ法意ニ依リ明カナレハ未ダ賣上サル現在ノ酒精ヲモ算入處罰スヘキハ當然ナリ廿八年一月廿四日酒精營業稅法違反

一八九 密賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ販賣ノ準備ヲ爲シタル所爲ハ酒精營業稅法十條ニ所謂無免許營業者トシテ處分スヘキモノトス廿八年十一月二日酒精營業稅法違反

一九〇 營業ノ免許ヲ受クシテ酒精ヲ販賣シタル場合ニ在リテハ其製造又ハ買入ハ酒精營業稅法發布以前ニ係ルモ仍ホ同法ノ制裁ヲ受クヘキモノトス廿九年一月廿二日酒精營業稅法違反

一九一 販賣ノ意思ヲ以テ酒精ヲ貯藏シ販賣シ得ル程度ニ達シ居レハ其手段方法ノ如キ明示ニ及ハス何トナレハ犯罪ノ手段方法ハ犯罪成立ノ要素ニ非スシテ事實認定ノ理由タルニ過キス廿九年十二月十五日酒精營業稅法違反

一九二 無免許ニテ酒類ヲ販賣シ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ儲藏シ置キタル場合ニ在リテハ未タ其酒精ハ販賣セサルモ其無免許ニテ酒精營業ヲ爲シタルモノトス廿九年三月九日〇號 酒精營業税法違犯

一九三 販賣スル目的ヲ以テ酒精ヲ買入レタル時ハ未タ之ヲ他へ販賣スルニ至ラサルモ其所爲ハ酒精營業法十條ニ所謂無免許營業ナリ廿一年四月三十一日〇號 酒精營業税法違犯

一八 徵兵令

一九四 失跡トハ忌避ノ情アル證據ノ認めヘキモノナクシテ其行方ノ分明ナラサルモノヲ云ヒ逃亡トハ忌避スル所爲アリテ殊更ニ行方ヲ晦マスモノヲ云フ故ニ失跡ト逃亡トノ區別ヲ明ニセサル裁判ハ破毀ヲ免レス廿三年二月二十五號 徵兵忌避

一九五 徵兵忌避ノ罪アリトシ罰セントセハ須ク被告人カ如何ナル所爲ヲ用ヒテ兵役ヲ免レタルカノ事實ヲ明示セサルヘカラス廿四年三月十一日 徵兵令違犯

一九六 兵役ヲ免ルル爲メ逃亡シ數年徵兵檢査ニ出頭セサル者ハ連續犯ナリ廿四年二月四日 徵兵忌避

一九七 連續犯ハ繼續犯ト同シク前後ノ所爲ヲ通シテ一罪ト爲シ處斷スヘキモノナレハ其犯罪未タ終了ヲ告クサルニ其幾分ヲ切斷シテ一罪ト爲シ處斷スルコトヲ得ス同上

一九八 廿三年法律一號徵兵令三條ノ犯罪ハ徵兵適齡ニ達シテ始テ成立スルモノナレハ忌避ノ手段トシテ虛偽ノ入籍届ヲ爲シタリトスルモ其事實ハ適齡以前ノ所爲ニシテ始テ以後ノ事實ニ對シテ忌避ノ事實分明ナラサルニ付之ヲ鑑査スルニ由ナシ廿一年三月四日 徵兵忌避

一九九 徵兵適齡以前ニ於テ兵役ヲ免ルル爲メニ用ヒタル詐偽ノ所爲ハ徵兵忌避罪ノ豫備ニ止マリ滿二十歳ニ達シテ始テ其犯罪ヲ構成ス廿一年五月廿四日 徵兵忌避

一九 豫戒令

二〇〇 豫戒令二條一號ノ命令ニ依リ其期間ニ生業ニ就カサルトキハ命令期間ノ經過ニ依リ其罪ヲ構成ス而シテ一度處罰ヲ受ケタル以上ハ其後尙ホ生業ニ就カサルモ之ヲ處罰スルヲ得ス廿一年六月廿八日 詐欺取財等

二〇 郵便條例

二〇一 郵便條例二百卅四條ニ己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シトハ郵便物ノ未タ受取人ニ交付セラレサル間ニ受取ルヘキ資格ナキ者カ之ヲ開封シタル所爲ヲ云フ故ニ裁判所ノ雇吏カ宿直ノ際書留郵便ヲ受取り開封シタルハ其受取ノ資格アリテ之ヲ受取りタルヲ以テ既ニ郵便物タルノ區域ヲ離脱シタルカ故ニ其後之ヲ開封スルモ同條ノ制裁ヲ受クス而シテ此ノ所爲ハ罰スヘキ法律ナキヲ以テ無罪トス
廿六年一月廿三日 官文書毀棄

二〇二 郵便局雇員等總テ官署ニ雇傭セラレテ公務ニ從事スルモノハ刑法上官吏トシテ論スヘキモノナリ
廿八年六月廿三日 官文書偽造等

二〇三 郵便爲替證書及爲替報知書ハ郵便局ニ於テ作製スヘキモノナレハ即チ官ノ文書ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シタル時ハ刑法二百三條ニ依リ處斷スヘク郵便條例二百四十二條ニ據テ處分スヘキモノニ非ス同上

二〇四 郵便條例ニ所謂郵便物隠蔽ト竊取トハ其間自カラ區別アルモノナレハ原院カ認定シタル隠蔽ノ事實ニ對シ郵便條例ノミヲ適用シ刑法三百六十六條三百七十六條ヲ適用セサリシハ相當ナリトス
廿八年一月廿一日 郵便物竊盜 (同條例二三四條)

二〇五 郵便局ノ集配人ハ其局ノ雇員ニシテ局長ノ雇人ニ非ス
廿九年三月十二日 監守盜 (集配人服務規則 一條二項)

二〇六 郵便稅ヲ免ルル目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ使用シタル所爲ハ刑法百九十九條ノ犯罪ニ非ス
テ郵便條例二百三十七條ノ犯罪ナリ 同三十年二月九日 郵便條例違犯

二〇七 郵便稅ヲ免ルル目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ再ヒ使用シタル時ハ其端書ハ犯用物件トシテ沒收セラル同上

二〇八 爲替證書ト爲替報知書トハ其効用ヲ異ニス從テ二者ヲ偽造行使シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス
同三十年三月廿六日 官印盜用等

二〇九 郵便貯金預簿郵便爲替出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ
同三十年四月十九日 官文書偽造等

二一〇 三等郵便局ハ官署ニシテ其局長ハ官吏ナリ
同三十年六月十日 竊盜等

二一一 郵便條例二百三十四條ニ己レニ屬セサル郵便物ヲ云々受取人ニ非サルモノニ交付シトアルハ受取人ニ交付セサル意思ヲ以テ第三者ニ交付シタル者ヲ處斷スルノ律意ニシテ受取人ニ交付スル意思ヲ以テ第三者ニ送致方ヲ委託シタル

所爲ハ之ヲ罰スル正條ナシ三十年一月廿一日郵便條例違犯

編者云本件ハ非常上告ニシテ受託者即チ三者カ更ニ又他人即チ四者ニ托シ送致シタル事實アリシモ共ニ破毀ノ利益ヲ受ケ無罪トナレリ

二一二 郵便局ノ雇員不足未納稅若クハ未納ノ郵便物アルニ當リ受信者ヨリ之ニ對スル金錢ヲ收受シナカラ郵便切手ヲ貼用セスシテ其金額ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財ヲ構成ス若シ其不足稅未納稅ヲ徵收シタル後惡意ヲ生シ費消セハ委託金費消罪又ハ監守盜罪ヲ構成ス同三十一一年廿六號日詐欺取財

二一二 新聞紙條例 參照官吏侮辱及誹毀ノ部

二一三 朝憲ヲ紊亂セントスルノ文章ヲ新聞紙ニ掲載發賣シタルノ事實ニシテ明示セル上ハ特別ノ理由ヲ示スヲ要セスシテ新聞紙條例三十二條ノ違犯者トナスヲ得同廿四年二月十八號日新聞紙條例違犯

二一四 新聞紙條例違犯ハ被告人ノ惡意ノ有無ヲ論セス禁止ノ文章ヲ新聞紙ニ掲載發賣スルト同時ニ犯罪ヲ構成ス同上

二一五 新聞紙條例三十二條ニ該當スル文章ヲ記載セハ發行人編輯人印刷人云々トアリテ其論說ヲ新聞記者自ラ起草シタルト他人ノ起草セシト否ハ問フ所ニ非

ス同廿四年三月廿三號日新聞紙條例違犯

二一六 新聞紙條例廿五條ニ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ云々事實ヲ證明スルコトヲ得トアルモ官吏侮辱ノ公訴ニ係ルモノニシテ誹毀ノ訴アリタルニ非サレハ事實ノ證明ヲ許スノ限リニ非ス己ニ官吏ノ職務上ニ對シ嘲弄ノ文詞ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタリト認定シタル上ハ其事實ノ有無ヲ陳辯スルモノ之ヲ以テ犯罪ヲ消滅セシムルコトヲ得ス同廿四年七月十六日官吏侮辱

二一七 新聞紙ニ記載シタル事實ニシテ苟モ現時豫審中ニ係ル秘密ノ手續ニ關スル上ハ其記載スル所多少實際ノ手續ト異ナルモ又名ヲ道路風説等ニ藉ルモ新聞紙條例十六條ノ制裁ヲ免レス同廿五年六月廿九號日新聞紙條例

二一八 教唆罪ハ教唆者カ或手段方法ヲ用ヒ他人ヲ教唆シ犯罪執行ヲ爲サシメタルノ所爲アルヲ要ス而テ被告兩名共謀シテ新聞原稿ヲ製シ之ヲ新聞社ニ投書シタルニ過キス抑投書ノ取捨ハ新聞社編輯人ノ隨意ニ屬スヘキモノナレハ他人ノ惡事ヲ新聞ニ投書シタル事ヲ以テ犯罪教唆ノ手段方法ト爲スヲ得ス同廿六年五月廿三日官吏侮辱

二一九 誹毀罪構成ハ故意アルヲ要ス故ニ新聞紙ノ發行人或ハ印刷人ニシテ其編

輯人ト共ニ新聞紙上ニ人ヲ誹毀シタル者ト爲スニハ其編輯人ト共謀ニ出タルヤ否ヲ審究明示セサルヘカラス判文之カ明示ヲ欠クハ理由不備ナリ廿七年四月十八日 誹毀

二二〇 新聞紙記者カ官吏ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタルモ發行人編輯人ニ在テハ常ニ其新聞紙記載ノ文詞ヲ了知スルモノナリト謂フヘカラス故ニ彼等共謀ノ上此文字ヲ掲載シ特ニ侮辱意思アリタルコトヲ明示セサル裁判ハ事實理由不備タルヲ免レス廿七年一月二一號 官吏侮辱

二二一 新聞紙上ノ官吏侮辱罪ノ構成ニ就テハ編輯人發行人等カ惡意アリテ侮辱シタルコトヲ說示スレハ足ルモノニシテ發告等ノ共謀シタルトハ此犯罪ノ構成ニ必要ナル條件ニ非ス廿八年三月五〇號 同官 官吏侮辱

二二二 秘密ニ屬シ公ニセサル官ノ文書カ裁判所ノ公廷ニ於テ證據トシテ提出セラレ其證據調ヲ經タルニモセヨ裁判所ハ裁判ヲ公行シタルニ在リテ其文書ヲ公ニスルカ爲メノ目的ニ非サルヲ以テ尙ホ之カ秘密ヲ保ツノ要アルニ於テハ當然該官廳ハ之ヲ秘密ニスルノ責任ヲ有ス故ニ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ私專ニ之ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ得ス廿八年五月廿六八號 新聞紙條例違犯

二二三 新聞紙條例十七條ニ所謂刑律ニ觸レタル犯罪人トアルハ一旦刑律ニ觸レタル以上ハ其刑ノ執行ヲ終了シタルト否ト又其者ノ既ニ死亡シタルト否トヲ問ハス總テ包含スヘキモノトス廿九年七月二十五號 新聞紙條例犯

二二一 特許條例

二二四 特許條例ニ依リ已ニ他人カ其特許ヲ受ケタル場合ニハ其特許發明ヲ改良シ其製品原料ニ多少ノ變更アルモ同例八條ノ手續ヲ經サレハ偽造ナリトス廿一年三月廿九號 特許條例違犯

二二三 商標條例

二二五 商標條例二十三條一項ハ苟モ他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リナカラ之ト同一又ハ類似ノ商標貼付シアル同一ノ商品ヲ販賣シタル者ハ其貼付者ノ何タルヲ問ハス即チ使用シテ販賣シタルモノナリ廿九年七月六日 商標條例違犯

二二四 酒造稅則

二二六 酒造稅則附則六條ノ所謂其住居セル一家外云々トアルハ現ニ住居スル宅地外ヲ云フモノニシテ單ニ本家ト棟ヲ異ニスル納屋倉庫等ヲ指稱スルモノニ非ス廿三年二月廿八號 酒造稅則附則違犯

二二七 明治十九年勅令六十號酒稅則附則ニ違犯シ清酒製造及ヒ制限高超過釀造ノ二所爲三期間ニ涉リ併發スルトキハ連續犯ヲ以テ論シ各一罪トシ科罰スヘキモノトス三期間ニ六罪ヲ組成シタルモノト爲シ處斷シタルハ擬律錯誤ナリ
廿五年六月廿九號同年酒造稅則違犯

二二八 生醜モ釀造ニ係ルヲ以テ酒類ニ非スト云フヲ得ス同上

二二九 酒類隱蔽ノ所爲ハ繼續犯ナリ從テ之ヲ發見シタル時ハ現行犯トシテ處分スルコトヲ得
廿八年一月廿四號酒造稅法違犯

二三〇 酒造稅則十八條ハ葡萄酒及麥酒ノ類ヲ製造スル者ニハ造石稅ヲ免除ス故ニ免許鑑札ヲ受クスニ是等ノ酒類ヲ賣捌クモ同則廿九條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス而シテ白葡萄酒ベルモット酒利久酒旭香蜜葡萄酒ノ四種ハ十八條ノ葡萄酒ノ類ニ相當スルヲ以テ廿九條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又鷄卵酒ハ葡萄酒若クハ麥酒ノ類ニ非サルヲ以テ廿九條ヲ適用シタルハ相當ナリ
廿七年一月三十二日酒造稅法違犯

二三一 酒造稅則三十一條ニ依リ造石稅三倍ノ罰金ヲ科スルニハ清酒ノ石數ニ依ラスシテ釀ノ石數ニ對シ罰金額ヲ算定シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ
廿九年五月廿一日

同九年酒造稅法違犯

二三二 追徴金ハ財産刑ナリ
廿九年一月廿六號酒造稅法違犯

二三三 免許ヲ受クスシテ製造シタル酒類ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ニ非ス
廿九年三月三十日酒造稅法違犯

二三四 酒類請賣營業人甲者ノ代理人乙者ニシテ其業務擔當中免許ヲ得スシテ酒類ヲ製造シタル時ハ乙者ハ酒造稅法二條二十二條ノ制裁ヲ受クヘク甲者ハ處罰ヲ受クヘキモノニ非ス
廿九年一月十六日酒造稅法違犯

二五 混成酒稅則

二三五 混成酒稅法違犯者ヲ處罰スルニ當リ其製造シタル混成酒ノ種類ヲ明示セサル判決ハ理由不備
廿一年五月廿二號聯合判決 混成酒稅法違犯

二三六 混成酒稅法違犯事件ニ付罰金ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ被告人ニ代ハリテ上告スル辯護人ハ罰金十分ノ一ノ金額ヲ豫納セサルヘカラス然ラサレハ其上告ハ成立セス
廿一年九月十三日混成酒稅法違犯

二六 藥用阿片賣買並ニ製造規則

二三七 藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違犯者ハ明治二十二年法律十號藥品營業

並ニ藥品取扱規則四十五條ニ基キ明治十一年二十一號布告藥用阿片賣買並ニ製造規則九條十六條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス同三十四年四月十六日藥用阿片賣買規則等違犯

二七 賣藥規則

二三八 賣藥請賣者又ハ藥種商ニシテ需用者ノ病躰等ヲ尋問シ其病ニ功能アル藥種ヲ販賣スルハ賣藥規則及藥品營業并ニ藥品取扱規則ノ禁セサル所ナリ廿三年一月二十日私營營業

二三九 賣藥規則二十三條ノ規定ニ依リ製藥ヲ沒收スルハ其製藥ヲ違犯者ノ手ニ現在スル場合ニ爲スヘキモノニシテ他人ノ所有ニ移轉シタルモノマテ沒收スヘキモノニ非ス廿三年二月十一日四號 賣藥規則違犯

二四〇 藥種商業者單純ノ藥種ヲ賣出シ又ハ出賣セシムルモ配伍調製ヲ爲サス又分量ヲ定メ効能書ヲ附セサル時ハ縱令小瓶又ハ小包ニ分チテ賣却スルモ賣藥ノ販賣ニ非ス廿四年五月八日一〇七號 賣藥規則違犯

二四一 廉價ナル龍膽製劑ヲ以テ高價ナル吐根丁幾ナリト欺キ之ヲ販賣シテ金圓ヲ騙取センコトヲ企テタルカ如キ詐欺取財ノ事實存スル上ハ刑法ヲ以テ處斷ス

ルヲ相當トシ藥品取扱規則ニ依リ罰金ヲ科スヘキモノニ非ス廿六年七月十日 詐欺取財

二四二 免許ヲ受ケタル賣藥ニ劇藥ヲ私ニ配伍シタル所爲ハ明治十年七號布告賣藥規則二十二條ニ所謂免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味ヲ改更シタルモノナルヲ以テ同條ニ依リ處斷スヘキ筈ナルニ之ヲ毒藥ヲ私ニ賣藥ニ配合シタルモノト斷定シ同則廿五條ニ依リテ罰シタルハ擬律錯誤ナリ廿八年二月八日四號 賣藥規則違犯

二四三 賣藥規則違犯ヲ一審ハ前科ニ掲ケ二審ハ示ササルモ該規則違犯ノ前科ハ本按ノ擬律ニ關係ナシ廿八年三月三日 詐欺取財

二四四 賣藥規則二十五條ニ所謂有毒藥トハ毒藥ノミヲ指シタルモノニシテ劇藥ヲ包含セス廿八年九月一日三號 賣藥規則違犯

二四五 賣藥規則ニ違犯シタル製藥沒入ノ判決ハ單ニ其現存高ヲ明示スルヲ以テ足レリ必スシモ製造高ヲ確定スルヲ要セス同上

二四六 賣藥規則一條ニ所謂賣藥トハ其効能書ヲ附シタルモノノミヲ意味スルニ非ス假令之ヲ附セサルモ効能用法ヲ口授シ若クハ又タ他人既ニ効能書ヲ附シテ販賣シ來レル賣藥ト同一ナルモ藥劑ヲ調製シテ販賣スル如キモ亦此法條ニ包含

スヘキモノトス 同年八月二十四日 賣藥規則違反

二四七 配伍調製セサル單純ナル藥品ト雖モ其分量ヲ定メ瓶ニ詰メ又ハ包ニ入レ効能書若クハ之ト同視スヘキ方法ヲ以テ治病ノ功能ヲ知ラシメタル時ハ賣藥規則一條ニ所謂賣藥ナリトス 同年十一月十三日 賣藥規則違反

二八 爆發物取締規則

二四八 爆發スヘキ性質ヲ有セル諸原料ヲ自己ノ手ニ取集メ必要アルトキ爆發セシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタル以上ハ假令其藥品其他ノ物品ヲ調合シ一物體ト爲サルモ爆發物ヲ所持シタルニ外ナラサルヲ以テ爆發物取締規則三條ニ依リ重懲役ニ處スヘク火藥取締規則ニ依リ罰金ニ處スヘキモノニ非ラス 五年一月十四日 爆發物取締規則

二四九 爆發物規則九條ニ所謂湮滅トハ刑法百五十二條ニ謂フ如キ罪證ト爲ルヘキ物件ナルニ於テハ其物件ノ消滅セサル以上ハ之ヲ湮滅ト云フヲ得サルモ九條ニハ罪證ノ湮滅ト云ヒ物件其モノノ湮滅ニ非サルカ故ニ假令物件ノ形體ハ存スルモ其隱シテ罪證ト爲ルヲ得ルヲ得サルニ至ラシメタルニ於テハ則チ罪證ヲ湮滅シタル者ト云ハサルヲ得ス 同年六月七日 爆發物取締規則

二五〇 爆發物ハ特許ヲ得タルモノニ非サレハ之ヲ所持スルヲ得サルヲ以テ法律上禁制物タルハ論ヲ俟タス全上

二九 傳染病豫防規則

二五一 傳染病豫防規則二條ノ精神ハ豫防スル便ヲ得ルニ外ナラス故ニ先ニ診察シタル醫師ヨリ届出ヲ爲セハ後ノ診斷者ヨリ届出サルモ反則トナラス 同年七月廿七日 傳染病豫防規則

三〇 度量衡改定規則

參照度量衡 偽造ノ部

二五二 度量衡改定規則四條中樹ノ如キハ線鐵磁鐵破損セシ際之ヲ自儘ニ他ノ線鐵磁鐵ト打替ルヲ禁セシモノニシテ單ニ釘ノ脱落セシヲ他ノ釘ヲ以テ打付ヲ爲スヲ禁セシモノニ非ス故ニ無罪ヲ言渡シタルハ當然ナリ 同年十二月四日 度量衡改定規則

三一 古物商取締規則

二五三 古物商取締規則違反ナリトノ裁判ニシテ無免許營業カ將タ免許ヲ受クルモ制限以外ノ場所ニ於テ營業セシ爲メカヲ判示セサルハ理由不備ノ不法アリ 同年十一月廿日 古物商取締規則

三二 船舶検査規則

二五四 明治十七年三十號布告十六條ニハ船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ云云トアリテ單ニ検査證書ヲ受ケテ航行シタルモノヲ罰スルノ明文ナシ然ルニ原院ハ検査ヲ受クルコトト證書ヲ受有スルコトノ二者ヲ混同處斷シタルハ不法ナリト論スルモ検査證書ヲ受有スルハ船舶検査終了ノ手續ニ外ナラサレハ證書ヲ受有セサレハ航行スルヲ得サルモノトス同一年三月廿九日船舶検査規則違犯

三三 稅關規則

二五五 甲港ニ於テ他ノ貨物ト共ニ輸入手續ヲ爲スヘキ物品ヲ故ラニ積荷目錄ニ記載セスシテ乙港ニ廻漕シタル所爲ハ稅關規則第十五條ノ法則ニ違背シタルモノトス同一年十二月廿七日稅關法違犯

三四 出訴期限規則 參考民法施行ノ日ヨリ廢止

二五六 出訴期限規則ハ義務ノ辨濟ヲ推測スルノ法則ニ過キサレハ義務ヲ認メタル證據アル場合ニハ之ヲ適用スヘカラス廿三年五月〇日貸金催促

二五七 出訴期限規則一條ハ商人互ニ販賣スル商品ノ賣掛代金ニ當行スヘキ期間ニシテ商業上ノ元資ニ供スル物件ノ如キハ直ニ物品ヲ以テ目スヘカラサレハ該

法條ニ包含セサルモノトス同廿五年三月二六號器械代金等

二五八 凡ソ義務ノ存在ヲ明認シタル場合ハ出訴期限ヲ適用スヘカラサルコト勿論ナルヲ以テ此立證アルニ拘ハラヌ出訴期限ヲ適用スルニハ必ス其理由ヲ説示セサルヘカラス同廿五年十一月十五號運賃金請求

二五九 債權自體ノ性質カ商人相互ノ賣掛代金ナルトキハ現今ノ債權者カ商人ニ非ストスルモ債權ノ性質ニシテ變更セラレサルトキハ尙商人相互間ニ係ル出訴期限ヲ適用スルコトヲ得ヘシ廿五年五月四一號 清酒讓渡金請求

二六〇 刑事ノ公訴ハ勸解ト全ク殊別ノモノナルカ故ニ其提起アリタルカ爲メニ出訴期限ノ中斷ヲ來サス同廿六年六月一日 貸金請求

二六一 書入買入ノ公證アル債權ニ出訴期限規則ヲ適用セサル所以ハ債權ノ存在明瞭ニシテ辨濟ヲナシタリトノ推定ヲナスヲ得サルニ因ル廿六年五月九日 貸金請求

二六二 公證ヲ受ケタル債權トハ公證ヲ受ケタル證書ノ存在スルノミニ止マラス現ニ登記簿ニ存在スル債權ヲ云フ同上

二六三 出訴期限規則五條但書ニ明治五年三百號布告三條ニ定メタル規則ハ格別

ナリトストアルハ追認ヲ以テ免責時効ノ成就シタル債權ヲ蘇生セシムルコトヲ
禁セシ法意ニ非ス廿六年五月十四日貸金請求

二六四 明治六年十號布告及出訴期限規則ハ返還スヘキ性質ヲ有セサル一時ノ取
次ノ爲メニ交付シ置キタル預證書ニ適用スヘカラス廿七年五月十三日預金取戻

二六五 出訴期限規則ハ訴訟人ノ申立ナキ場合ニ適用スヘキ法律ニ非サルヲ以テ
出訴期限經過ノコトヲ以テ請求ニ對抗セントスル者ハ事實審理ノ際之カ申立ヲ
怠ルヘカラス廿六年四月廿七日貸金請求

二六六 出訴期限經過ノ主張ハ訴訟ノ進行中何時ニテモ爲ステ得ヘシ之ヲ訴訟法
上ノ妨訴ノ抗辯ニ擬シテ辯論以後ニ爲ステ得スト論スルヲ得ス廿八年一月廿二日
貸金催促

二六七 裁判理由ノ前段ニ於テハ貸借ノ事實ナシト爲シ其後段ニ於テ出訴期限ノ
規則ヲ適用シ假リニ貸借アリタリトスルモ義務ヲ免カレタリト推則ヲ與ヘタル
ハ不法ナリ同上

二六八 一審ニ於テ單ニ請求金ノ辨濟ヲ主張シ出訴期限規則ヲ援用セサルモ二審
ニ至リ之ヲ申立タルトキハ其援用ノ權利ヲ拋棄セリト云フヲ得ス廿八年十一月八日

日七 貸金請求

二六九 出訴期限ヲ經過シタシ債權ハ義務者ヲシテ辨濟ノ舉證ヲ免カレシメ法律
ノ推定上既ニ其義務ヲ盡シタルモノト爲ス故ニ質權者ヨリ自然義務ニ化シタ
ルモノト論スルヲ得ス同上

二七〇 出訴期限規則ノ精神ハ單ニ其期限經過ノ一事ヲ以テ當然債務ヲ免除スル
モノニ非ラス債務者カ歲月彌久ノ爲メ辨濟ノ證明ヲ爲ス能ハスト主張スル場合
ニ於テ法律上救済ノ路ヲ與フルモノナリ廿八年三月廿五日貸金請求

二七一 出訴期限規則ハ消滅時効ノ規定ニアラスシテ辨濟ノ事實ヲ證明スル責任
ヲ免ル、コトヲ定メタルニ過キス故ニ債務者カ該規則ヲ援用スルモ既ニ債務ノ
辨濟ヲ爲シタルコトヲ申立テサルトキハ同規則ニ依リ附與セラレタル利益ヲ受
クルコトヲ得ス廿九年四月廿七日貸金請求

二七二 出訴期限規則ノ利益ヲ援用スル者ハ其處定ノ期限ヲ經過シタルコト及ヒ
既ニ其義務ヲ辨濟シタルコトノ申立ヲ爲スヲ要セス廿九年三月十三日貸金請求

二七三 出訴期限規則ヲ援用スル者ハ既ニ債務ヲ辨濟シタルモ數多ノ歲月經過ノ
爲メ其事實ヲ證明シ能ハサル旨ヲ陳述スルヲ必要トス廿九年七月四日貸金辨償

二七四 出訴期限規則二條ニ所謂一ヶ年期迄ノ奉公人トハ普通年期奉公人ト稱スル者ニ限リ藝人ト興行人トノ雇傭契約ニ於ケル被雇傭人ノ如キモノヲモ包含セズ
三十一年四月廿三日 月給金殘額請求

二七五 明治五年三一七號布告ハ慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル金穀貸借ノ債權者ヲシテ其權利ヲ棄捐セシムルノ意ニ出テタルモノナリ
三十一年六月四日 貸金請求

二七六 當事者ノ提出セサル證據ニ依リ出訴期限中斷ノ事實ヲ認定シタルハ違法ナリ
三十一年七月五日 預金請求

二七七 明治十一年司法省丁九號達ハ裁判確定后五ヶ年ヲ經過スレハ債務者ハ既ニ其執行ヲ爲シ了レルモノトノ推定ヲ以テ裁判ヲ爲シ來レル公認ノ慣例ナルヲ以テ一般之ニ遵據スヘキモノトス
十一年五月六日 強制執行異議

三五 雜

管財人娼妓貸坐敷日清通商條約版權法、會計法犯罪官報體代過料處分

二七八 管財人ハ被管財人ノ爲メニ其財產ヲ監守スルニ止リ財產ヲ處分スルノ權能ナシ
廿三年四月九日 講事滯金

二七九 正當ノ管財人タル以上ハ之ヲ知ル者ト否トニ拘ハラズ有効ナリ
廿四年五月

廿六年二月田用水口制限

二八〇 貸坐敷及ヒ娼妓ノ營業又ハ貸坐敷娼妓間ノ契約ハ法律ノ禁止スル處ニアラサルモ娼妓ハ貸坐敷ニ於テ自由ヲ妨ケラル、コトナク其業ヲ營ムニ過キサレハ病氣其他ノ事故ニヨリ廢業セントスル場合ニハ假令契約上營業ノ收入金ヲ以テ借入金返辨ノ目的トナシタルニモセヨ之カ爲メ自由ヲ拘束シ強テ營業ヲ爲サシメントスルハ索ヨリ法律ノ禁スル所ナリトス
廿六年十月十三日 捺印要求

二八一 娼妓カ廢業ノ場合ニ借入金ノ未濟アリシ時ハ本人又ハ之カ加判人ヨリ返辨ヲ求ムハキノミニシテ返金ノ目的カ娼妓營業ニアリト云フテ理由トシ返金ヲ了セサル限リハ營業ヲ強ヒントスルハ不當ナリ同上

二八二 行政官廳カ行政警察上ノ注意ニ出テ娼妓ト貸坐敷トノ間ニ紛議ヲ生シ裁判所ニ出訴セントスルトキハ其理由ヲ所轄警察署ヘ申出承認ヲ受クヘシト布達シタリトテ其承認ヲ得サル以上ハ裁判所ニ訴ルヲ許サス即チ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、道理アルユトナシ同上

二八三 娼妓カ貸坐敷營業者ニ對シ一定ノ年期中勞務ニ服スルトノ契約ハ法律上無効ナリ
廿九年三月十一日 娼妓廢業届出調印

二八四 日清通商章程十五款ニ所謂内地ニ赴キ物品ヲ買取ルコトヲ許サストハ買取ニ關スル一切ノ行爲ヲ禁シタルモノニシテ其買取トハ其契約ノ締結及履行ヲ包含ス同廿七年四月廿四號 處有權確認假處分返還請求

二八五 日清通商章程十五款ノ官設物品ノ處有權ハ清國人ニ存スト云ヲ得ヘキモ他ノ權利關係人ニ對シ若クハ日本帝國裁判所ニ向テ之ヲ主張シ以テ法律ノ保護ヲ請求スルヲ得ス同上

二八六 民事上ノ權利行爲ニ付テハ本人ノ行爲ト代理人ノ行爲タルトニ依テ其効力及裁判ヲ異ニセス同上

二八七 本件係爭ノ高等小學讀本ニ續史餘論中ノ文章ヲ轉載シタルハ全ク事實上ノ參考文章ノ軌範ト爲スニ外ナラサルコト既ニ明確ナレハ之ヲ明治二十年七六號ノ版權條例ニ照スニ其一條ノ所謂圖書ヲ翻刻シタルモノニアラス又同第一九條ニヨリ僞版ヲ以テ論スヘキモノニモ該當セス廿六年一月四五號 廿八年四月四日 版權侵害要償

二八八 會計法二五條ニ所謂前金トハ工事進行中即チ工事ノ出來形ヲ認メサルニ先チ支拂テ處ノ金圓ヲ指示スルモノニシテ會計規則六七條ニ基ク内渡金即チ工事完濟前其既成ノ部分ニ相當スル金圓ノ支拂ト同一ニアラス廿八年一月一五三號 請

負保證金返戻等

二八九 刑法上ノ犯罪ト民事上ノ犯罪トノ制裁ハ全ク別種ノ關係ニ基キ各分立シテ互ニ影響ヲ受クルモノニアラス同廿八年十一月二十五號 損害金請求

二九〇 刑法一一四條一一五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相續法ノ如キ民法上ニ於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニアラス廿九年八月十五日 相續權確認請求

二九一 官報ノ廣告ハ仲買人ヲ羈束セス故ニ仲買人カ公債證書ノ贓物ナルコトニ氣付カス之ヲ他ニ轉賣シ其結果買主ノ損害トナルモ仲買人ハ之カ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノニアラス同三十年十一月十三號 整理公債證書取戻

二九二 官吏ノ任命補職ニ付テハ官報ハ止タ其掲載ノ年月日當該官廳ノ職務上行爲ニ依リ之ヲ其任命補職セラルヘキ本人ノ智識ニ達セシメタル時ニ非サレハ其効果ヲ生セス同三十年八月四號 損害賠償

二九三 明治五年大藏省一一八號觸ハ憲法ニ予盾セサル現行ノ法令ナルヲ以テ違由ノ効力ヲ有ス同廿一年一月十六號 非譜代確認

二九四 民事訴訟上裁判所ノ保護ヲ求ムル目的ハ必ス私法上ノ權利關係ナラサル

ヘカラス而シテ譜代ナル者ハ法律上禁止セラレタル家格ニシテ私法上ノ權利關係ニアラス故ニ譜代ニ非ラサルコトノ確認ノ訴ハ裁判上保護スヘキモノニアラス全上

二九五 非訟事件手續法二〇九條ノ規定ハ現行商法及ヒ商法施行條例ニ抵触ノ條項アルモ之ヲ無効トセス同一年十月十九日會社法違犯

二九六 過料處分ハ民事上ノ責任ト異ナリ相續人ニ於テ先代ノ負ヘル責任ヲ繼承スヘキモノニアラス同上

大審院判決摘要類纂下卷畢

明治三十一年七月六日印刷
明治三十一年七月九日發行
明治三十二年十月廿六日增補印刷
明治三十二年十月廿六日再版發行

正價金壹圓五拾錢

編者 鷹木一郎

編者 朝見小三郎

發行者 大橋新太郎

印刷者 多田三彌

印刷所 惠愛堂

東京麴町區内幸町一丁目五番地



發兌元

東京日本橋區本町三丁目

博文館

法學士中山文次郎君著

● 不動産登記法正解

全壹冊洋裝並製 正價三拾錢 郵稅六錢

博文館編輯局編纂 (第貳版)

訂增 新撰帝國法典

全壹冊總クローヌ金文字入千八百頁

正價 金七拾五錢 郵稅金十四錢

明治初年より明治三十一年五月に至る緊要の法令は羅して漏さず収めて本書にあり、其排列の整正なる索ねる所の法規は搜索一過直ちに之を搜出を得べく、校正嚴密にして全篇を通じて一の誤謬を認めず、且つ製本小形なれば携帶に頗る便に披閱に煩ならず、良紙堅装他に其比を見ず

東京區裁判所書記長敬一君著

● 不動産登記申請實用

全壹冊洋裝並製 正價貳拾錢 郵稅四錢

戶籍事務必携要書

市岡正一君編纂

● 必携 戶籍事務實行問答

全一冊 洋裝並製 正價三拾錢 郵稅六錢

宮川大壽君註釋

● 詳説 改正戶籍法典

全一冊 洋裝並製 正價三拾錢 郵稅六錢

市岡正一君編纂

● 市町村事務取扱全書

全一冊 洋裝並製 正價八拾錢 郵稅拾錢

市岡正一君編纂

● 改正 戶籍事務取扱全書

全一冊 洋裝並製 正價一圓五十錢 郵稅十六錢

發兌元 東京日本橋區 本町三丁目 博文館

博文館編輯局編纂

第八版 改正 帝國六法全書

全壹冊洋裝 總クローヌ 金文字入 全文六號活字 印刷鮮明

紙數千參百頁 正價金九拾錢 郵稅拾錢

本書に收載する所の憲法、裁判所構成法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、及諸法に關する附屬法規、而して商法及法例は本年公布の新法を載せ、又附屬法規は前總て之を網羅し、且最新發布のものに至る迄悉く之を收録し、したるを以て、之を第七版に比すれば、法令の數に於て、頁の數に於て、二百有餘と増すに至り、面目は一新せり。即ち此書前版を求められし得られ、其未だ本書を求めざる諸君は、新に本書を求められんことを希ふ。

東京控訴院御編纂

東京控訴院裁判錄

全壹冊洋製菊判
正價金參拾五錢
郵稅六錢

東京控訴院は、學者の淵藪、實際家の團集を以て目せらるゝや久し、而して此院の判決は、めたるもの關係は一層複雑にして、事實は新規也。而して東京控訴院の之を判決する。微を穿ち録を拆ち、鑿々肯綮に當らざるなし。實に是れ法曹社會の好判例、職に此れに従事するもの、及び學に斯れに志すものは、其購讀を欠く可らざるものなり。

農商務省特許局御編纂

特許意匠審決錄

全壹冊總シロース 正價金壹圓 郵稅十四錢

本書は、**商工業**界に就職する**特許意匠**は日に盛にして我商工業界の面目を一新す、是時に當りて當局者の審決判明せられ以て各自のを保持せらる、而して本書の編纂を得て本業に従事する者、必ず本書を座右に備ふるの必要あるなり

農商務省特許局御編纂

商標審決錄

全壹冊總シロース 正價金壹圓 郵稅十四錢

商標は商家の看板招客の目標なり、而して本書は即ち其使用に關する諍議に對し、當局者の下し**審決**を編纂のしたるも**商標**の**使用**に關する眞理、隨々掌を指すが如し、友なり。請ふ購ふて一本を座右に備へられよ

内閣總理大臣侯爵山縣有朋君題辭
司法大臣 清浦奎吾君序文
博文館編輯局編纂

九版出來

改正 現
補增 行

日本法令大全

全壹冊菊判
背皮金字入
印文六號 活字
印刷鮮明
紙三千頁
數

正價 金參圓

小包郵便料

(日方) 十里迄 金拾三錢
(八百匁) 百里迄 金貳拾四錢
百里外 金四拾八錢

明治元年より今明治卅二年六月に
間ける法令は、法律と命令とを問はず、訓令
を網羅したり
別索引あり。故に所要の法令は手に隨て搜出する
を待べし。實に國民片時も不可缺寶典也

法學士 上田 豊君著

民法 親族篇 相續篇 釋義

全壹册菊判 上製五拾錢 郵稅拾錢 參百拾餘頁 並製卅五錢 郵稅八錢

法學士 梶原仲治君著

民事訴訟法釋義

全壹册菊判 上製五拾錢 郵稅十錢 參百廿餘頁 並製卅五錢 郵稅八錢

法學士 丸尾昌雄君著

民法 總則篇 物權篇 釋義

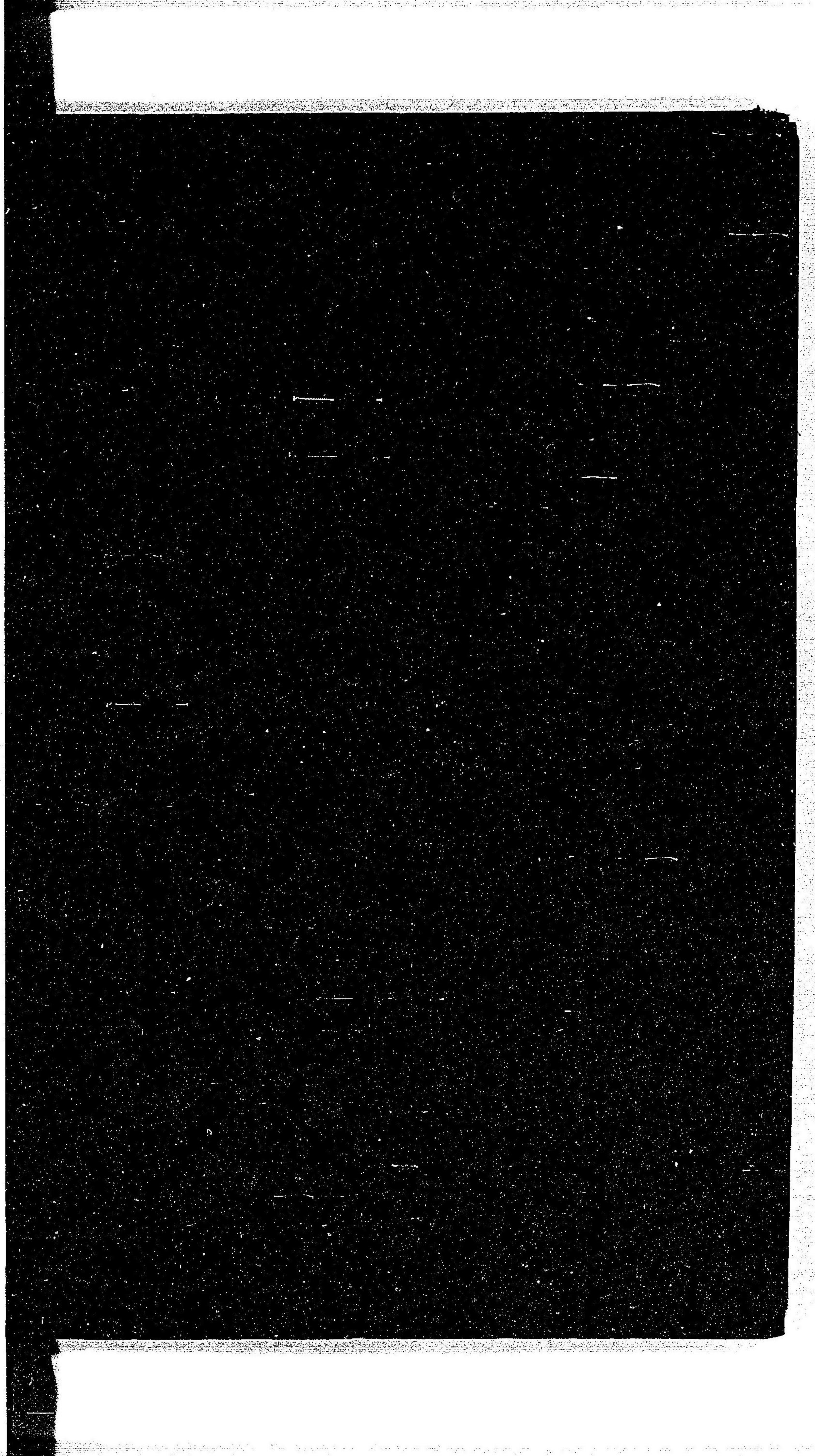
全壹册菊判 上製五拾錢 郵稅十錢 參百餘頁 並製卅五錢 郵稅八錢

凡そ法令中、吾人に最も緊切なる者を民法と爲し、民法中吾人に最も緊切なる者を親族編、及相續編と爲す。蓋し前者は吾人生前の身分及親族關係を規定し、後者は吾人死後の財産の處分を規定する者なればなり。而して此二編、今や此書に依て解説せらるる、解説者は、多年其研鑽に思考を費したる上田法學士なり、説明簡淨、條理井然、法律の眞意と立法の精神とは、兩々發揮せられて紙上に躍如たり、民法の法意を知り、其保護に漏れざらんと欲するの士は、座右に之を缺くべからざるなり。

訴訟の勝敗は主張の曲直に於けるよりも、手續に通ぜざるを以て其攻究を怠るもの、如きは、未だ共に法理の故を以て其攻究を怠るもの、如きは、未だ共に法理の筆を以てし、議論明確、序次整然、規定を説くに簡淨の所、手續は卷を展べ、即ち知るを得べし、由來訴訟法は斯學者の説く最も世間未だ之を知らざるなり。

總則編は、民法全篇に通ずる物的權利の得喪變更に關する事を定む。其重要なる知るべきなり。今說明こと丁寧親切、而も繁冗に流れずして能く立法の精神を發揮する處、解釋の巧妙を見る、權利擁護の師友として、之に勝るものなし。

79
129



79
127

禁電子式複写

036558-000-0

CZ-2113-05

大審院判決摘要類纂

藤木 一郎

朝野 小三郎 / 編

M32

BBR-0452



